

令和4年度（2022年度）

北海道・札幌市政策研究みらい会議

活動実績報告

令和5年（2023年）3月

- 1 北海道・札幌市政策研究みらい会議の概要
- 2 令和4年度メンバー
- 3 会議等開催実績
- 4 活動報告
 - ① 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進
 - ② これからの働き方をデザインしよう！
～自分の仕事が好きと言えますか？～
- 5 まとめ ～活動を振り返って～

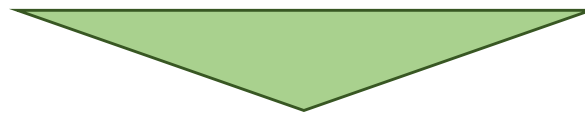
1 北海道・札幌市政策研究みらい会議の概要

【位置づけ】

北海道知事と札幌市長が意見交換を行う「北海道・札幌市行政懇談会」において合意された、両組織の若手職員による分野横断的なプロジェクト

【目的】

両組織の未来を担う人的ネットワークの拡充を図るとともに、自由な発想による「北海道のより良きみらい」に資する活動を企画・実践



「地域資源の価値向上」や「交流人口の増加」といった北海道の発展につながる可能性を探求！

2 令和4年度メンバー

北海道

総合政策部政策局	國井 貴友
総合政策部地域行政局市町村課	三浦 聖弘
経済部経済企画局国際経済課	齊藤 遼
農政部農政課	山澤 知香
水産林務部林務局林業木材課	大森 康平
出納局総務課	佐竹 里津子
議会事務局総務課	金子 賢樹
教育庁学校教育局高校教育課	荒井 波澄

札幌市

まちづくり政策局政策企画部企画課	高嶋 俊輔
保健福祉局子ども発達支援総合センター地域支援課	大瀧 直哉
消防局西消防署警防課	菊地 朗夫
北区保健福祉部保険年金課	櫛井 梨加
東区保健福祉部保護三課	坂上 陣哉
教育委員会学校教育部教育推進課	小笠原 悠

3 会議等開催実績

令和4年（2022年）

7月28日	第1回会議（メンバー顔合わせ、活動方針の共有）
9月5日	第2回会議（企画案についての意見交換）
9月27日	第3回会議（企画内容の決定）
11月29日	第4回会議（中間報告）
12月21～22日	長沼町でのワーケーション体験

令和5年（2023年）

1月下旬	職員アンケート（ワーケーション）
2月上旬	職員アンケート（働き方デザイン）
3月20日	活動報告会

※その他、関係するイベントへの参加、道・市関係部署へのヒアリング等を実施



交流・関係人口の増加に向けた ワーケーションの促進

4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

目的

「ワーケーション」は、「新たな働き方」として近年注目される概念である。
人口減少や地域課題の改善に繋がるよう、本道及び道内市町村の交流・関係人口の増加に向け、
ワーケーションの普及を促進する取組を実施、提案する。

ワーケーションとは

- ワークworkとバケーションvacationを組み合わせた造語
- テレワークを活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすこと[観光庁HP]

【多くのイメージ】

自身の業務を遠隔地で行い、時間外は観光などを楽しむ「福利厚生型」

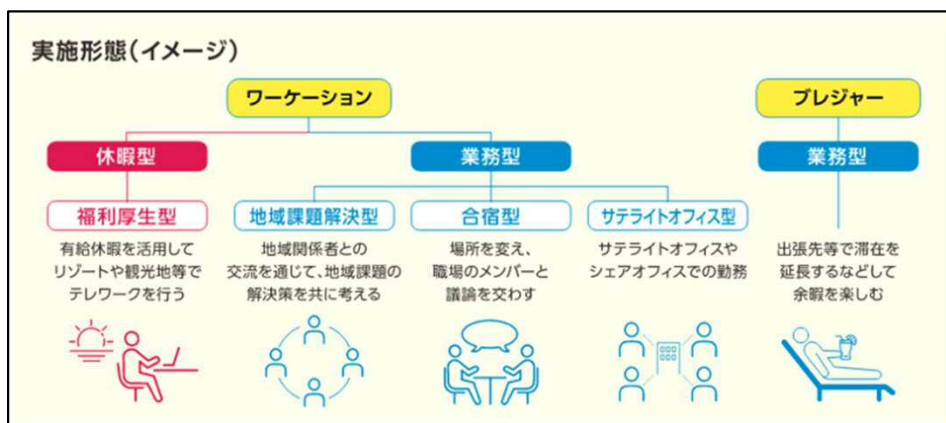
【みらい会議でのメインの取り組み】

地域との交流を通じて、地域の課題解決策を考える「**地域課題解決型**」

☆地域課題解決型ワーケーションの利点

(参加者)

- ・地域とより深くつながるきっかけになる
 - ・社会貢献やSDGs、新規事業につながることも
- (自治体)
- ・地域課題の解決に加え、個人や企業との関係構築、交流・関係人口増加



出典：観光庁『新たな旅のスタイル』ワーケーション&プレジャー』企業向けパンフレット(簡易版)

われわれの活動

1 テーマの選定

- ☆「交流・関係人口の増加」
 - ☆「道内の地域課題解決」
 - ☆「新たな働き方」
- **ワーケーション** を選定

2 取り組み

- ☆情報収集、メンバーで勉強会を開催
 - ☆各種セミナーの参加
 - ☆実施する取り組みの決定
- 1) **ワーケーション体験動画を作成しPR**
- ・メンバー自らが出演者となることで、実体験可能特徴や課題も実感
 - ・道・市公式Youtubeで公開し、**魅力を対外的にPR**
 - ・**×**自分の業務を遠隔地で行う
- 「**地域課題解決型**」ワーケーションを実施する
- 2) アンケートにより職員ニーズを把握

↓

体験やデータに基づき、**ワーケーションの普及・促進**に繋がる取組を提案

4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

目的

「ワーケーション」は、「新たな働き方」として近年注目される概念である。人口減少や地域課題の改善に繋がるよう、本道及び道内市町村の交流・関係人口の増加に向け、ワーケーションの普及を促進する取組を実施、提案する。

ワーケーションをめぐる現状～職員による実施～

1 北海道、札幌市

- 職員がワーケーションを実施できるという規定はない
(現状可能な働き方) ※道及び市で共通
在宅勤務、サテライト勤務、モバイルワーク
※職員が自ら自由に働く場所を選ぶことはできない
- 出張前後、用務地等で有給休暇を取得し自己啓発による能力開発を行うことは可能。
→「ブレジャー」に近い取組は実施可能

2 国・全国的な動き

- ワーケーションが可能な省庁も存在
環境省：テレワーク実施要領を改正 (R2)
→国立公園で職員がワーケーションを実施
- 全国知事会で「休み方改革PT」を設置
検討テーマの一つ：
新しい休み方として**休暇型ワーケーションやブレジャーの活用**
- 人事院でテレワーク等の柔軟な働き方に対応した勤務時間制度等の在り方に関する研究会を開催

3 民間企業

- ワーケーションを導入する企業の例
富士通、日本航空、日本マイクロソフトなど
※観光庁HPにて、ワーケーションを導入した企業を紹介

ワーケーションをめぐる現状～道と市の政策上の扱い～

1 北海道（総合政策部地域政策課）

- 「北海道型ワーケーション」事業を展開
(目標)
・移住促進や企業進出
(手法)
・ワーケーションの道内への誘致
・企業と市町村とのマッチング
→首都圏を中心に関係人口の拡大を目指す

2 札幌市（経済観光局観光・MICE推進課）

- フリーランス等の「個人」を中心に情報発信を展開
(目標)
・「新たな旅のスタイル」による札幌への誘客推進



4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

- 取組**
- 1) みらい会議メンバーによるワーケーション体験・動画作成
 - 2) 職員向けアンケートの実施
 - 3) その他

1) ワーケーション体験・動画作成

【目的】 体験動画を作成しワーケーションの魅力を対外的にPRする
ワーケーションの特徴や課題を、実体験を通じて理解する

【場所】 長沼町

【期間】 2022年12月21～22日

【内容】 「業務型」ワーケーションを想定し、次のとおり実施

1日目：長沼町が用意した「チームビルディングプラン」

2日目：みらい会議が設定した「地域課題解決プラン」

【その他】

☆長沼町選定の経緯

- ・道地域政策課に相談した結果、企画の趣旨等を踏まえ長沼町が候補地に挙がる
→長沼町の協力により体験決定

☆体験の詳細

1日目：町内の景色、食事、体験活動などを写真撮影し、SNS上で発信

2日目：町内の事業者へ、町の課題をインタビューし、町が考える課題と町民意識のギャップを調査。結果を町へ報告。

☆体験の振り返り

- ☺ ワーケーションによる「チームビルディング」は、メンバーの交流促進に有効であった。
- ☺ 普段とは異なる環境で、普段接する機会の少ない業種の方々と意見交換を行い、見識が広がり、よい刺激になった。



▲ワーケーション中の様子



▲長沼町ワーケーション関連HP

4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

- 取組**
- 1) みらい会議メンバーによるワーケーション体験・動画作成
 - 2) 職員向けアンケートの実施
 - 3) その他

1) ワーケーション体験・動画作成

- ・体験内容別に2本動画を作成
- ・道・市公式YouTubeチャンネルにて2023年3月下旬に公開

1 ワーケーション体験動画撮ってみた！ in 長沼町

【概要】「ステイマオイ・フォトコンテスト」プラン体験の様子

【目的】

- ・ワーケーションを検討している個人・企業への普及
- ・長沼町及び北海道へのワーケーションによる来訪を促進

【コンセプト】

- ・みらい会議メンバーが「ワーケーションに挑戦する」
- ・本事業の感想を交えつつ長沼町でのワーケーションの魅力を紹介

ワーケーション体験動画、
撮ってみた!
in 長沼町



- 北海道公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCueMO5wYdoTfBzzv5IEHcug>
- 札幌市公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/user/SapporoPRD>

2 地域課題解決型ワーケーション in 長沼町

【概要】「地域課題解決型ワーケーション」の紹介動画

【内容】

- ・地域課題「探求」として長沼町の各事業者へインタビューを実施
- ・長沼町でのワーケーションの魅力を紹介しつつ、「地域課題解決型」による自治体と来訪者へのメリットを提示
- ・地域や人が繋がることの魅力が視聴者へ伝わるよう工夫



4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

取組

- 1) みらい会議メンバーによるワーケーション体験・動画作成
- 2) 職員向けアンケートの実施
- 3) その他

2) アンケートの実施

【目的】道・市職員のワーケーションへの理解度及び需要を把握する

【期間】2023年1月（2週間）

【内容】主な質問は次のとおり

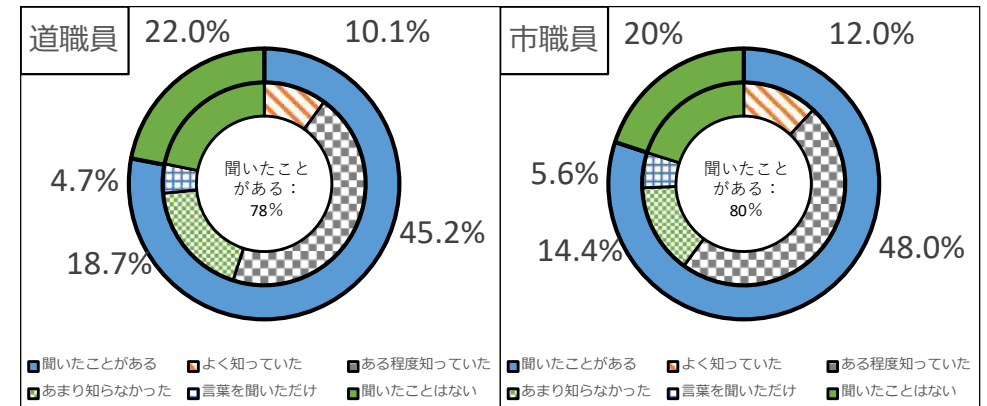
- ・ワーケーションを知っているか
- ・ワーケーションを試してみたいと思うか（したくない理由は）
- ・ワーケーションは行政と職員に、どのようなメリットがあると思うか
- ・ワーケーションのどの形態なら興味があるか

【回答数】道職員：1,756人、市職員：531人

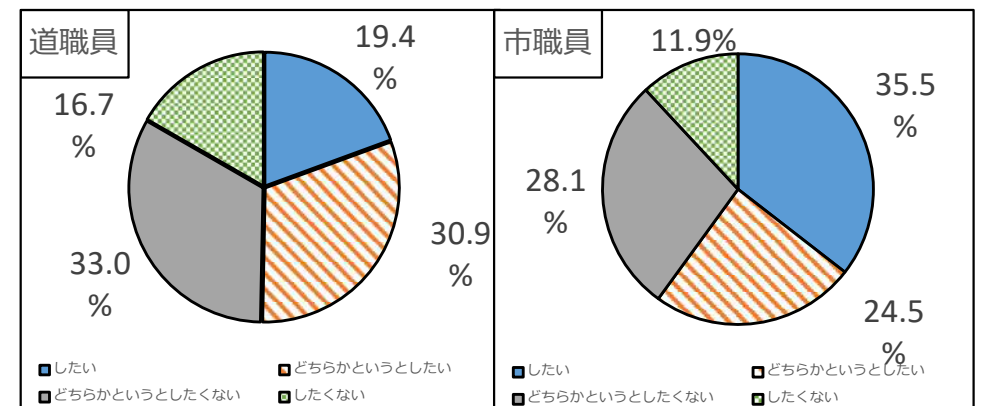
【分析】道・市ともに、回答の傾向は近似

- ・「聞いたことがある」という職員は**8割程度**
(類型が複数あることを知っていたのは1割程度)
- ・「ワーケーションを試してみたい」という職員は**半数程度**
(道：50.3%、市：60.0%) ※無回答は除外
- ・「実施したくない」理由の1位は「**旅行先で仕事をしたくない**」
(二位：機器紛失のリスク、三位：機器運搬が手間)
- ・導入による行政のメリットの1位は「**多様な働き方が拡充される**」
(二位：有給休暇取得率の向上、三位：魅力ある職場になる)
- ・導入による職員のメリットの1位は「**業務時間外の充実**」
(二位：有給休暇取得率の向上、メンタルヘルスケア)
- ・実施してみたい形態は「**福利厚生型**」と「**ブレジャー**」で拮抗
(合宿型や地域課題解決型の需要は少ない)

Q.ワーケーションを知っているか



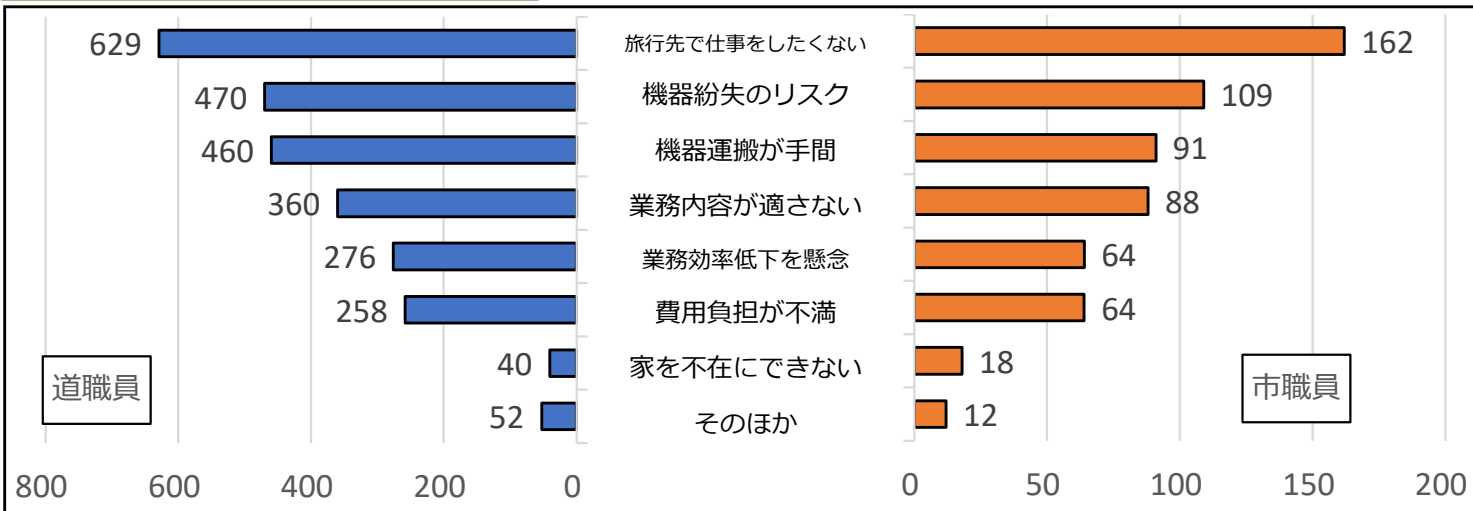
Q.ワーケーションをしたいか



4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

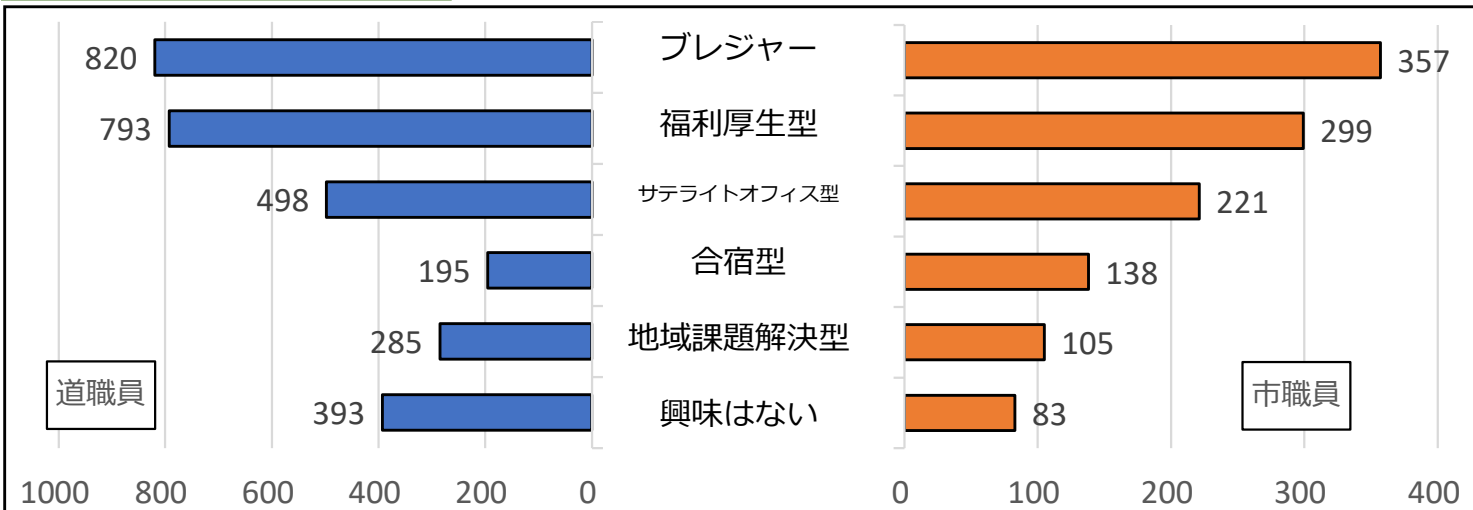
- 取組**
- 1) みらい会議メンバーによるワーケーション体験・動画作成
 - 2) 職員向けアンケートの実施
 - 3) その他

Q.ワーケーションを実施したくない理由 (複数選択可)



☆旅行先で仕事をしたくないという回答が、道・市ともに最も多かった。
 ☆当初、費用負担（全額自己負担）の不満が最多となると想定
 →**金銭負担以上に仕事とプライベートを切り分けたい**という考えが多い
 →同時に、**ワーケーションとは「旅行先で仕事を行うもの」**というイメージが強いと判明

Q.実施したいワーケーションの類型 (複数選択可)



☆ブレジャーや福利厚生型といった、「**休暇型**」の実施希望が多い
 →合宿型や地域課題解決型をワーケーションの類型として認識する職員が少ないためと想像

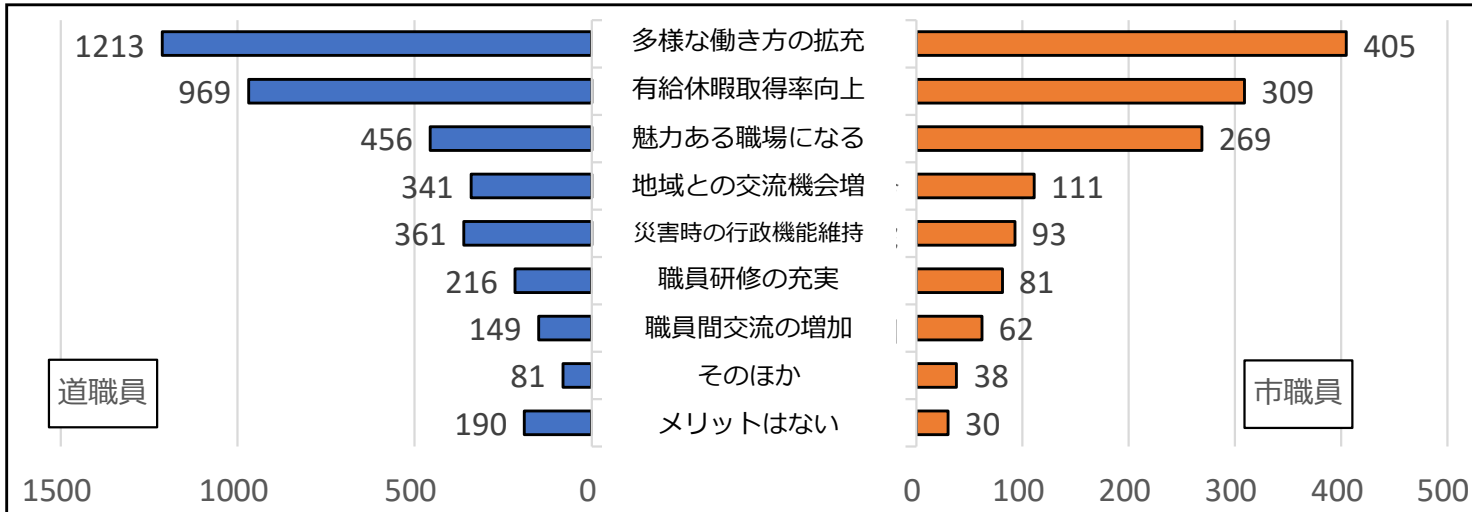
【参考】ワーケーションの内容や類型を知っていた職員
 →道：全体の10.0%
 市：同 12.6%

4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

取組

- 1) みらい会議メンバーによるワーケーション体験・動画作成
- 2) 職員向けアンケートの実施
- 3) その他

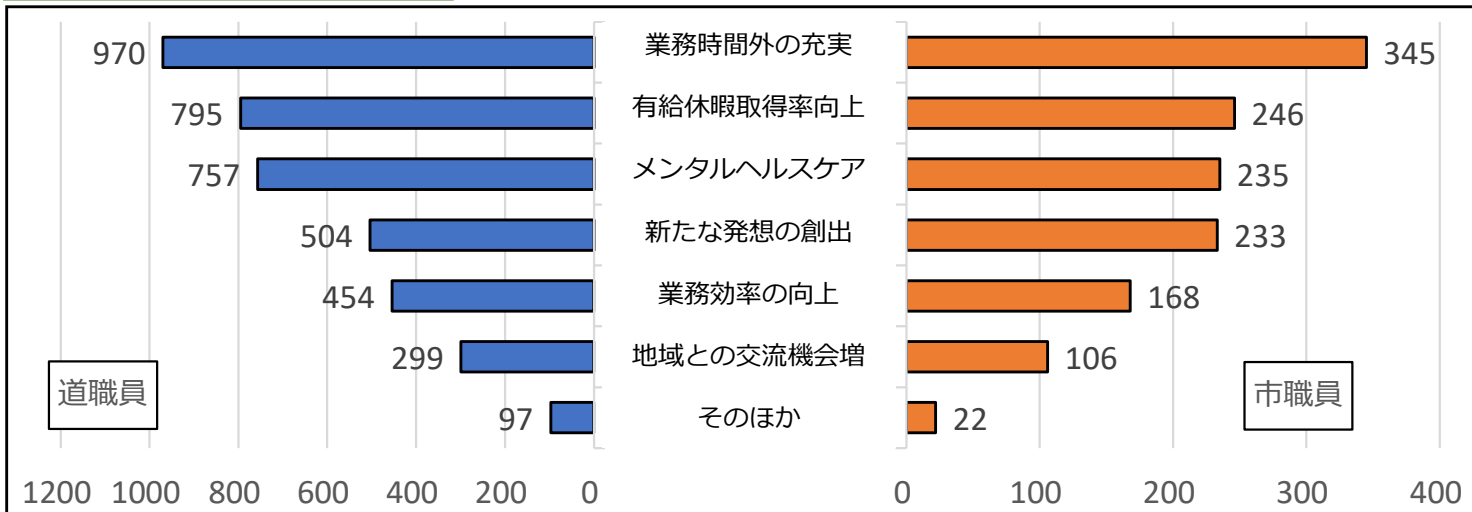
Q.導入による行政のメリット (複数選択可)



☆ワーケーションを導入することで、職員の多様な働き方が拡充すると考える職員が最も多い

☆ワーケーションを活用した職員研修という考え方は少ない。
→ワーケーションの類型が複数あることを知っている職員が少ないことが原因か。

Q.導入による職員のメリット (複数選択可)



☆職員自身へのメリットとして、業務時間外の充実が図られるという意見が最も多い。

☆合宿型や地域課題解決型の需要が少ないこともあり、地域との交流機会が増加すると回答した職員は少ない。

4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

取組

- 1) みらい会議メンバーによるワーケーション体験・動画作成
- 2) 職員向けアンケートの実施
- 3) その他

3) その他の活動

(1) 北海道ワーケーションセミナー2022への参加

【日時】2022年11月10日 10:30~11:30

→民間事業者や、鹿追町の取組を学ぶ

○民間事業者のワーケーションの狙い（一例）

- ・ウェルビーイング：観光・帰省でリフレッシュ
- ・キャリア形成：副業・社会貢献活動の実践
- ・**地域課題解決**：ワーケーションを入口とした地域との連携強化
⇒潜在的な課題の発見

・チームビルディング：組織の心理的安全性を高めるリアルコミュニケーション

○鹿追町のワーケーション

- ・ウチダザリガニ（外来種）の駆除作業を実施し、参加者が地域課題の認識・体験
⇒企業としてどう協力できるか、どう業務に繋がられるか
- ・鹿追町だけのものではなく「企業と鹿追町」が取り組むもの
⇒両者の課題解決に向けた取組ができると考えている

(2) 北海道型ワーケーション受入検討会議の傍聴

【日時】2022年11月22日 14:00~15:00

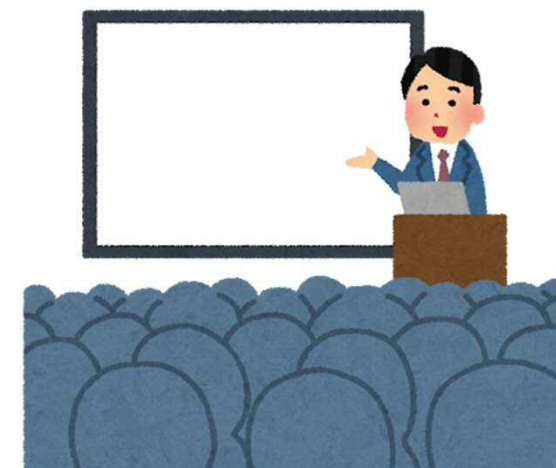
→北海道及び道内市町村のワーケーション取組状況を確認

○道内市町村取組状況報告での発言（一部）

- ・自治体の担当職員がワーケーションを体験することでハードやソフトの課題が見えてくるのでは



▲セミナーの様子



調査・研究、ワーケーション体験動画の
作成で得た知識、経験を踏まえ、
交流・関係人口増加に向けたワーケーション促進
に繋がる取組を次のとおり考えました。

4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

提案

- 1) 地域課題解決型の更なる推進
- 2) エリア視点の導入
- 3) WoCH（情報交換、相互交流の場）の開催
- 4) 新制度（ワーケーション）の導入

ワーケーションの促進

1 地域課題「解決型」の更なる推進

【提案のポイント】

- ・ 事前に市町村が**自らのマチの課題を洗い出し**、企業に取り組んでほしい課題を提示する取り組みをさらに推進
- ・ **課題解決型を進める市町村をモデルケース**に、他市町村に周知

【提案理由】

- ・ 道内ではプレジャーやサテライトオフィス型の取り組みが多い
→北海道型ワーケーションが目指す**課題解決型は広く普及していない**
⇔市町村は経済的なメリットに加え、**企業との交流による地域課題解決**を期待例) 鹿追町、長野県立科町

【新たな課題の発見と解決型ワーケーションの循環】

- ☆ **ワーケーションで発見された課題を課題解決型ワーケーションの課題の一つとして提示し、課題の解決に向け外部リソースを獲得**

- (1) 市町村：地域課題解決型のほか、チームビルディングプランなどを提示例) 長沼町ワーケーション×チームビルディング創生事業
- (2) 企業：チームビルディングや地域課題解決を主体としたプランに参加
→ワーケーション体験で**感じた地域の課題を、市町村にフィードバック**
- (3) 市町村：提示された地域の課題を収集
→地域課題の早期発見、早期解決に繋げる
→課題の内容によって**課題解決型ワーケーションの課題の一つとして提示**
- (4) 道：地域課題発見、解決のモデルプランとして、道内市町村へ周知、普及

課題解決だけではなく、取組を通じて交流・関係人口の創出にも繋がる

事業実施イメージ

市町村

- 企業が地域と交流、または意見交換できるワーケーションプランを作成



企業

- 地域との交流を通じ、**地域の課題を発見**
- 発見した課題を市町村に報告



市町村

- ☆発見された課題を、行政の施策や企業等の外部リソースにより解決に繋げる

市町村による
施策

課題解決型
ワーケーション

4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

提案

- 1) 地域課題解決型の更なる推進
- 2) エリア視点の導入
- 3) WoCH（情報交換、相互交流の場）の開催
- 4) 新制度（ワーケーション）の導入

ワーケーションの促進

2 エリア視点の導入

【提案のポイント】

- ・ 振興局を中心として、管内または各エリアの市町村で協議会を構成
→ エリア周遊を目的としたワーケーションプランを作成し、地域としての受け入れを展開
- ・ 近隣市町村と協力・連携してワーケーションの受け入れを進めることで、**互いの市町村が保有するコンテンツ（観光地、グルメ、温泉など）を補完しあい、「○○エリア」として一体感を持った集客を展開**
例）根室管内、北・中・南空知エリア

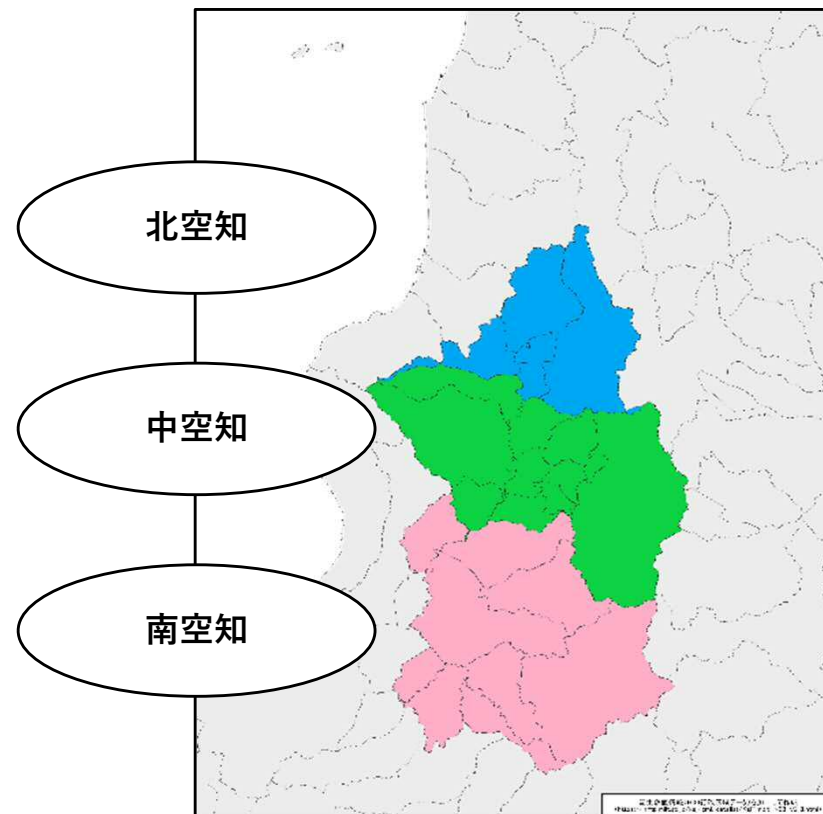
【提案理由】

- ・ 外部からの訪問者は、**行政区分を意識せず行動**（長沼町でのインタビューより）
- ・ 他市町村への訪問客が、自市町村を訪れる可能性を高める



プランの魅力アップでワーケーション参加者の増加が期待

参加者が増えることで交流・関係人口の増加に繋がる



エリア分けの例

4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

提案

- 1) 地域課題解決型の更なる推進
- 2) エリア視点の導入
- 3) WoCH（情報交換、相互交流の場）の開催
- 4) 新制度（ワーケーション）の導入

ワーケーションの促進

3 WoCH（情報交換、相互交流の場）の開催

【提案のポイント】

- ・ WoCH = **Workcation Conference in Hokkaido**（市町村ワーケーション担当者同士の情報交換、相互交流の場）を設置
- ・ 道が主催し、道内市町村で年二回（夏、冬）に開催し、**ワーケーションの受け入れ状況等を情報交換、現地視察**
→参加者の要望に応じて、企業や道外市町村のワーケーション担当者との意見交換を実施
- ・ 受入事例や実際にワーケーションに触れることで、自市町村での受け入れ業務をブラッシュアップ

【提案理由】

- ・ 行政の担当者：自身がワーケーションを実施できない中で、受入業務を担当
- ・ 一つの市町村では、情報収集に限界も
→現地で実体験（**疑似ワーケーション**）しながら情報交換する
→ワーケーション受入にあたっての**課題や改善点を実体験として発見**

受入体制が充実し、道内市町村がより魅力あるワーケーション地に

リピーターの増加に繋がり交流・関係人口の創出が期待



4 活動報告 交流・関係人口の増加に向けたワーケーションの促進

提案

- 1) 地域課題解決型の更なる推進
- 2) エリア視点の導入
- 3) WoCH（情報交換、相互交流の場）の開催
- 4) 新制度（ワーケーション）の導入

職員のワーケーション実施

4 新制度（ワーケーション）の導入

【提案のポイント】

- ・ **企業（送り手）、従業員（利用者）、行政・地域（受け手）それぞれにメリット**
→職員アンケートでも様々なメリット・効果が期待されることを確認（既述）
- ・ 民間だけではなく、ワーケーションが可能な省庁も存在（既述）
→環境省：テレワーク実施要領を改正（R2）
- ・ テレワークの適切な導入及び実施の推進のためのガイドライン（R3.3厚労省）で、**ワーケーションもテレワークの一形態として位置付け**

【提案理由】

- ・ 道・市ともにアンケート回答者の**半数程度が、ワーケーション実施を希望**（既述）
- ・ メンバーによる体験動画作成時の疑似体験で、**福利厚生、リフレッシュ効果を実感**
- ・ 人事院でテレワーク等の柔軟な働き方に対応した**一般職国家公務員**の勤務時間制度等の在り方を検討する研究会を開催（既述）

国等の動きを踏まえつつ、北海道・札幌市職員のワーケーション導入を

職員が地域の交流・関係人口になり得る

ワーケーション・プレジャー導入のメリット

企業 (送り手側)	仕事の質の向上、イノベーションの創出／帰属意識の向上 人材の確保、人材流出の抑止／有給休暇の取得促進 CSR、SDGsの取組みによる企業価値の向上 地域との関係性構築によるBCP対策／地方創生への寄与
従業員 (利用者側)	働き方の選択肢の増加／ストレス軽減やリフレッシュ効果 モチベーションの向上／リモートワークの促進 長期休暇が取得しやすくなる／新たな出会いやアイデアの創出 業務効率の向上
行政・地域 (受け手側)	平日の旅行需要の創出／交流人口および関係人口の増加 関連事業の活性化、雇用創出／企業との関係性構築 遊休施設等の有効活用

出典：観光庁『「新たな旅のスタイル」ワーケーション&プレジャー』企業向けパンフレット

人事院 研究会での委員意見（抜粋）
「在宅勤務やモバイル勤務、ワーケーション等をどこまで認めるかは規則でどう定めるか次第ですが、**守秘義務や職務専念義務に反しない範囲で職員による自由な選択を広く認めていくことが望ましい**」